

平成23年度 創立者古屋賞・山梨学院スチューデントズ オブ ザ イヤー賞 受賞者一覧

【創立者古屋賞】						
NO	部門	氏 名	学科	学年	所 属	推 薦 内 容
1	創立者 古屋賞	アリソン 有 蘭	法	4	レスリング部	2011年世界レスリング選手権大会 グレコローマン96kg級 出場(平成23年) 文部科学大臣杯2010年全日本大学レスリング選手権大会 グレコローマン96kg級 優勝(平成22年) 2011年全日本大学グレコローマン選手権大会 グレコローマン96kg級 優勝 2連覇(平成23年)
2	創立者 古屋賞	オンディバ・コスマス	現代 ビジネス	4	陸上競技部	第87回東京箱根間往復大学駅伝競走大会 第3区1位(平成23年) 第88回東京箱根間往復大学駅伝競走大会 第3区1位 区間新記録(平成24年) 第40回全日本大学駅伝対校選手権大会 第8区1位(平成20年)
3	創立者 古屋賞	キタザト 北 里	経営情報	4	ホッケー部	第60回全日本学生ホッケー選手権大会 優勝 最優秀選手(平成23年) FIHチャンピオンズチャレンジ I 2011 ホッケー日本代表(平成23年) 第16回アジア大会 ホッケー競技 6位(平成22年)

【スチューデントズ オブ ザ イヤー賞・大学院】						
NO	部門	氏 名	学科	学年	所 属	推 薦 内 容
1	学術 (修士論文)	ムラマツ 村 松	社会科学 研究科	2	秋峯晴男ゼミ	修士論文『法定相続分課税方式の疑問点とその打開策－遺産取得税並びに累積的課税を巡って－』は、極めて優れた論文である。本論文は、少子高齢化社会において相続税制がどのようにあるべきか、次のように検討している。まず、相続税の課税根拠と課税方式、わが国相続税制の変遷、「法定相続分課税方式」の仕組みの整理と疑問点の抽出、主要諸外国の相続税課税方式の整理とその比較検討を行っている。次に、相続税の課税方式に関する先行研究について、整理し、考察している。最後に、わが国相続税制のあり方について考察し、提言をしている。本論文は、論点の明確な設定、相続税制の変遷・現行制度の問題点の整理、諸外国の相続税制に関する適切な調査、論点についての的確な検討と明快な結論、論述の適切さなど、修士論文として極めて優れたものと評価できる。
2	学術 (修士論文)	シマダ 島 田	社会科学 研究科	2	江藤俊昭ゼミ	修士論文『広域自治体における自治基本条例の可能性と課題』は、地方自治論にとって重要なテーマにスポットを当てるとともに、山梨県を対象として自治基本条例の構想を提示している意欲的な論文である。本論文は、都道府県におけるその制定の重要性を指摘すると同時に、山梨県の自治基本条例制定の可能性を探り、制定に当たったの視点や項目も提示している。本論文には次のような意義がある。第一に、市町村とともに都道府県というレベルではなく、むしろ都道府県にこそ自治基本条例が必要なことを明示した。第二に、自治基本条例の一般的動向とともに、そもそも「自治体の憲法」であるならば、住民自治を進めるべく、その先駆的な動向であるアメリカ合衆国の市憲章を素材に検討し、自治基本条例制定に当たったのヒントを探っている。第三に、山梨県の自治の動向を踏まえて、山梨県の独自の自治基本条例の意義を探っている。広域行政における自治基本条例の意義とともに、住民自治を進めようという視点から論述している点は大いに評価できる。

【スチューデントズ オブ ザ イヤー賞・大学】						
NO	部門	氏 名	学科	学年	所 属	推 薦 内 容
1	学術 (卒業論文)	イシダ 石 田	法	4	竹端 寛ゼミ	本学生の『終わらない辛さから続ける強さへ』を今年度の法学科の優秀論文と決定した。本論文は、客観的論証を伴った通常の法学科の研究論文とは趣を異にする。しかし、法学科の学生が選択するゼミには多種多様なものがあり、ゼミの内容によっては、随筆・随想、体験記、手記等々の書き手の主観的要素を色濃く投影した内容の文章が高い評価を受けることもあり得る。本論文も、内容の是非は別として、筆者が悩みに真摯に取り組んだ姿勢は高く評価でき、学生の知的活動を鼓舞することを目的とする本賞の趣旨にも合致するものである。
2	学術 (卒業論文)	コバヤシ 小 林	政治行政	4	日高昭夫ゼミ	本学生の『道の駅からみる地域の観光振興』を今年度における政治行政学科の最優秀論文と決定した。その理由は、第一に、山梨県全域のすべての「道の駅」を実際に訪れ、北海道や岐阜県にまで調査の対象をのぼし、さらに行政機関にまで調査の対象を広げ、実証研究における重要な要素である資料収集における熱心さは高く評価できる。したがって、本論文は、実態調査に基づく優れた論文であると言える。第二に、本論文は、論理的叙述や資料解釈が実によくなされているという点で評価に値する。
3	学術 (卒業論文)	サイトウ 齊 藤	現代 ビジネス	4	日高優一郎ゼミ	『－実証研究－選ばれるWeddingスタイルと2つの要因』と題する本論文は、ウエディングのスタイルが多様化している現状に対して、そのスタイルを選ぶ側であるカップルの特性によって選択の傾向が異なるという仮説を、アンケート調査と定量分析から検証したものである。分析の結果、「カップルの性格と他者とのつきあい方で選ばれるウエディングスタイルは変わる」ということが実証された。特に、男性の性格が「肉食系」か「草食系」という要素が強く影響している可能性が指摘されている。本論文は、興味深いリサーチ・クエスチョンに対して適切な調査設計がなされ、定量分析を通じてその仮説が検証される、という論文の満たすべき要件を十分に満たしていることに加え、説得的なマネジリアル・インプリケーションと、更なる研究の拡張の可能性が存在しているという点で、他の学生への範となるべき力作であると評価された。
4	学術 (卒業論文)	アメミヤ 雨 宮	経営情報	4	長倉富貴ゼミ	『Jリーグがもたらす経済効果について ～地域貢献がもたらすJリーグの収入～』と題する卒業論文は、2010年のサッカーJリーグのクラブチームの営業収入を調べて、各クラブチームの収入や地域貢献の特徴をまとめている。その上で、本学の地元チームであるヴァンフォーレ甲府と他のチームを比較している。さらに、ヴァンフォーレ甲府のサポーターへアンケート調査を行い、サポーターがチームに何を求めているかをまとめている。これらの調査をまとめとして、本学生が考える今後の課題と地域への在り方を述べている。この論文の優れている点は、多くのサイトの情報と適切な資料文献を使って、Jリーグの各チームの収入と地域貢献の特徴を調べているところである。そして、調べた結果を分かり易く工夫してまとめ、さらに独自のアンケート調査を行い、分かり易く結果をまとめている。最後に、全体をまとめて論理的に独自の結論を導いているところが、最も高く評価できると考えられる。
5	文化 芸術	込山ゼミナール 3年生	法	3	込山芳行ゼミ	日本の伝統芸能である「能」は、日本人が世界に向けて誇るべき文化の一つであり、私たち若者には、古くから受け継がれてきたこの伝統芸能を次の世代に伝承していく義務があると考えている。本ゼミナールの3年生は、この「能」に興味・関心を抱き、学生を中心にできるだけ多くの方々に、普段接することができない「能」の素晴らしさを実感していただく機会を模索した。その中で、本学附属高校出身である能楽師佐久間二郎氏のご指導を仰ぐこととなり、本年度の樹徳祭において酒折樹徳「能」として公演を行った。公演当日までの様々な準備はもちろん、学生自身が演者として「能」を体験する企画でもあり、ゼミのメンバー全員が各人の長所を活かし努力した成果は、何事にも代え難い財産になったと言える。なお、この内容は、平成23年度秋季学生チャレンジ制度の認定企画(テーマ:酒折樹徳「能」～伝統芸能「能」に挑む若者たち～)である。

NO	部門	氏 名		学科	学年	所 属	推 薦 内 容
6	スポーツ	カナザワ 金澤	カツシ 勝利	法	3	レスリング部	2011年全日本学生レスリング選手権大会 フリースタイル120kg級 2位 2011年全日本大学グレコローマン選手権大会 120kg級 優勝
7	スポーツ	キヤマ 歸山	マイ 麻衣	現代 ビジネス	3	スケート部	第84回日本学生氷上競技選手権大会 1500m・3000m・チームパシュート 優勝
8	スポーツ	アオノ 青野	ダイチ 大地	現代 ビジネス	4	陸上競技部	第26回ユニバーシアード大会 20km競歩 出場
9	スポーツ	ナガヤマ 永山	カナ 加奈	経営情報	4	ホッケー部	第30回全日本大学ホッケー王座決定戦 優勝(最優秀選手)
10	スポーツ	シオカワ 塩川	ナオト 直人	現代 ビジネス	4	ホッケー部	第60回全日本学生ホッケー選手権大会 優勝(優秀選手) FIHチャンピオンズチャレンジ I 2011 ホッケー日本代表
11	スポーツ	ナカムラ 中村	タケノリ 剛教	法	3	柔道部	平成23年度全日本学生柔道体重別選手権大会 73kg級 優勝
12	スポーツ	カガヤ 加賀谷	チホ 千保	法	3	柔道部	平成23年度全日本学生柔道体重別選手権大会 52kg級 優勝 平成23年度講道館杯全日本柔道体重別選手権大会 52kg級 優勝
13	スポーツ	カトウ 加藤	イズミ 和	政治行政	3	水泳部	第26回ユニバーシアード競技大会 200m個人メドレー 優勝 FINA競泳ワールドカップドバイ大会 200m・400m個人メドレー 優勝
14	スポーツ	スズキ 鈴木	サトミ 聡美	経営情報	3	水泳部	2011年度競泳国際大会代表選手選考会 50m・100m・200m平泳ぎ 優勝 第14回世界水泳選手権大会 日本代表
15	スポーツ	フルカワ 古川	ヒロタカ 裕剛	現代 ビジネス	4	硬式野球部	関甲新学生野球春季・秋季リーグ戦 2季連続ベストナイン賞(外野手)
16	スポーツ	オカダ 岡田	カオリ 佳織	経営情報	4	ソフトボール部	第46回全日本大学女子ソフトボール選手権大会 中心選手として活躍 第63回全日本総合女子ソフトボール選手権大会 中心選手として活躍
17	スポーツ	モク 木工	リエ 理絵	現代 ビジネス	1	バスケットボール部	Uー19女子世界バスケットボール選手権大会 7位入賞
18	スポーツ	モリタ 森田	マアサ 真亜沙	政治行政	3	空手道部	第55回全日本学生空手道選手権大会 女子個人形 5位 第55回全日本大学空手道選手権大会 団体形 3位
19	団体 活動	イワタ 岩田	カオリ 佳央梨	現代 ビジネス	4		1年間を通じて、スポーツ強化指定選手への学習支援活動である「SSA(Study Support for Athletes)」にスチューデント・アドバイザーとして参加し、特に現代ビジネス学科の中心的アドバイザーとして多大な貢献をした。特に「アスリートキャリア形成(陸上競技部クラス)」(担当:竹端寛准教授)では、担当教員の指導の下、学生へのアドバイスを積極的に行い、グループ発表会を成功に導いた。本学生は、チャレンジ精神が旺盛で、円満な人柄である。また、常に相手を思いやる姿勢が行動だけではなく雰囲気としても現れており、他のスチューデント・アドバイザーやアスリート学生から頼れる先輩として慕われている。さらに、苦手な分野(例えば、数学的思考力を必要とする問題など)にも積極的に挑戦しており、自身の可能性を広げようとする向上心は、他の学生の模範となっている。
20	団体 活動	オクダ 奥田	シュンスケ 俊亮	経営情報	3	樹徳祭 実行委員会	第42回樹徳祭実行委員長として、高いリーダーシップとメンバーからの絶大な信頼で、今年度の樹徳祭を大成功に導いた。来場されるすべての方々に対して、素晴らしい感動と笑顔を届けることができるよう、あらゆる場面において前向きな気持ちで努力し続けた結果、最高の「仲間」と最高の「舞台」で最高の「パフォーマンス」を発揮することを目標に開催された今年度の樹徳祭は、学内・外から高い評価を受けることになった。これまでの樹徳祭の歴史を深く理解する中で、伝統芸能である能楽の公演や真打落語家による寄席の公演など、新たな企画に挑戦する姿勢は賞賛できる。また、地域の企業・団体や住民の方々々と連携することで、より魅力的な大学祭を作り上げることに尽力した。

【スチューデントズ オブ ザ イヤー賞・短期大学】							
NO	部門	氏 名		学科	学年	所 属	推 薦 内 容
1	学術	オギノ 荻野	ミサコ 美紗子	食物栄養	2		本学生は、食物栄養科フードクリエイトコースの第一期生の中心メンバーとして、本学オリジナルマスコットのアルティ&ベッキーをモチーフにしたクッキーの製作と山梨県スイーツマップの作成という企画テーマで、学生チャレンジ制度の認定を受けた。また、企業提携・共同開発として、「桃餡」の製菓への利用を検討した。洋菓子・和菓子・製パン製品のレシピを提供、一部販売も行い、地域に根ざした活動を展開した。さらに、平成23年10月に開催された山梨県洋菓子協会主催の「ケーキショー2011」におけるケーキコンテストでは、山梨県内のパティシエ30名が参加した中、奨励賞を受賞し、素晴らしい活躍を見せた。本学生は、「製菓衛生師」、「レストランサービス技能検定3級」の二つの国家資格試験にも見事合格し、今後の活躍が期待できる。
2	資格	ウナギイケ 鰻池	ハルナ 春菜	食物栄養	2		本学生は、栄養士資格取得及び健康栄養学部編入学試験の学習の合間を縫って弛まない努力を重ね、難関なサプリメントアドバイザーの認定試験に見事合格した。本資格は、一般消費者がサプリメントを使用するにあたり、正しい最新の知識を提供し、その選択・使用において適切なアドバイスを行う資格である。取得には栄養士必修の教科目のほか、薬理学や最新のサプリメント動向など多くの知識の習得が必要であり、取得者の多くは薬剤師が占めている。この資格取得を通して、現在の日本の健康問題を深く理解したことは、栄養士の知識に付加能力を授け、保健領域のエキスパートとして大きな成長をもたらした。社会のニーズに対応できる新しいスタイルの栄養士として、今後の活躍が大いに期待できる。
3	社会 活動	アマノ 天野	ノブヒコ 信彦	食物栄養	2	岡本裕子ゼミ	本学生は、山梨県観光課及び山梨県旅館組合と連携した「朝食バイキングにおけるヘルシーメニューの提案」というテーマでのゼミナールの研究において、リーダーとして積極的に取り組み、卒業レポートを完成させた。その結果、山梨県内の二つのホテルにおいて、提案したメニューが実際に提供され、その様子が新聞にも取り上げられた。また、地場産業を取り入れた学内の料理コンテストでは、「スモモと蜂蜜のリンゴ酢ドリンク」で入賞、山梨市主催の農業振興「甲州とうもろこしを使用した料理コンテスト」では、甲州とうもろこしを発酵させ、甘酒を作る発想の豊かさが評価され、優秀賞を受賞した。さらに、笛吹市の食育活動の一環として開催した「笛吹市の食材を使用した地産地消料理コンテスト」では、高い技術力が評価されて優秀賞を受賞し、市のホームページにレシピが掲載された。これらの社会活動への積極的な参加と優れた成果は、本賞に相応しいと言える。